



令和6年  
前期

# Maritime Training

— 海上訓練 —

**TEIKei**

## 訓練計画

### ■基本訓練(毎回実施)

- ・ 出航前訓練
- ・ 係留訓練
- ・ 操船訓練
- ・ GPS/海上レーダー訓練
- ・ 監視訓練

### ■個別訓練

- ・ 救助訓練(3月・4月)
- ・ 接舷訓練(9月・10月)
- ・ 曳航訓練(1月・12月)
- ・ アンカー(投錨)訓練(5月・11月)
- ・ 基礎体力訓練/救助訓練(2月・6月)

### 令和6年度前期 実施日

**7月19日(金)**

曇り / 風速4.0m / 中潮

**8月23日(金)**

曇りのち雨 / 風速4.0m / 中潮

**9月20日(金)**

曇り / 風速3.0m / 中潮

**10月25日(金)**

曇りのち雨 / 風速3.0m / 大潮

## 指導者



### 監督

**白石 康次郎** (海洋冒険家)

生年月日: 1967年5月8日 東京生まれ鎌倉育ち  
出身校: 神奈川県立三崎水産高等学校  
(現: 神奈川県立海洋科学高等学校)

少年時代に船で海を渡るという夢を抱き、高校在学中に単独世界一周ヨットレースで優勝した故・多田雄幸氏に弟子入り。レースをサポートしながら修行を積む。

1994年、当時26歳で、ヨットによる単独無寄港無補給世界一周の史上最年少記録(当時)を樹立。

「ヴァンデ・グローブ 2020-2021」にてアジア勢初となる完走を果たした。現在「ヴァンデ・グローブ 2024-2025」に出場中。

## 基本訓練

毎回  
実施

### 操船・警戒

操船は、事前の航行ルートの確認、速度の調整、舵の操作、GPSプロッター等の機器操作に至るまで、熟練した艇長が指導しています。

#### 警戒



#### 操船



#### チャートワーク



事故を未然に防ぐために

### GPSプロッター

船の位置や船速などを計測・表示する機器で、自船の航跡も記録でき、座礁や遭難を防止します。地図データを用いて周囲の情報を把握することができます。



### 係留訓練

係留は声を掛け合い連携を取り、ロープの受け渡しを速やかにいき、係留施設へロープを固定します。潮流や風向きに応じて船体のどこから固定するかを判断します。

#### ロープワーク①



#### ロープワーク②



#### ロープワーク③



7月  
8月

# 救助訓練

rescue training

## 救助梯子を使用しない想定訓練

海上保安庁の事故状況報告によると、7月から8月は海のレジャー・観光が増え事故が増加します。

海上警備を実施する我々は、万が一海難事故に遭遇した時に備え、要救助者を適切に救助するため訓練を実施しています。

### アプローチ



・落水者の位置を船長へ大声で伝え、接触回避のため風下から接近する

### 救命浮環使用



・落水者の手の届く範囲に直接当たらないように投げる

### 水難救助用マネキンを使用した訓練



・声を掛け合い一気に引き上げる!

### 実際の落水者を想定した訓練



・引き上げが困難な場合はロープを使い支援する



## 国土交通省東京航空局より 人命救助に対する感謝状が授与されました。

この感謝状は、令和5年12月、海上保安庁より船舶の沈没情報を受け、当社海上警備艇長の判断により直ちに警備艇を出港させ迅速かつ的確な乗船員及び船舶の捜索を行い、海上に漂流中の男性1名を救助。日頃の訓練の成果が今回の人命救助につながり、感謝状授与となりました。

# 接舷訓練

9月  
10月

alongside training

## 船の損傷防止

接舷は互いの船体が接触する為、フェンダーを用いて損傷防止を行います。特に甲板の高さが違う場合は、船ごとにフェンダーの高さ調整が必要となります。

各員の「接舷時の操船技術」と「知識」を高めさせる事で、緊急時でも安全かつ迅速な対応が可能です。

## 緩衝材を用いた船体保全



・接舷時、互いの船体が接触しないようフェンダーを使用

## 海上での接舷

船が他の船と接舷する際には、正しい技術と知識が必要です。海上での接舷は、風や潮流に流されやすい為、船舶間の素早い連携が必要になります。

## 船同士の接近

・船同士が一定の距離まで近づいたら船首からロープを投げて接舷を開始

